

zNose の再現性について：

zNose の再現性についての評価方法としては、zNose 装置そのものがヘッドスペースガス分析機ということから、同一のヘッドスペースガス・サンプルでのサンプリングが一番相応しい方法と考えられるが、この場合の問題点として気体サンプル自体のばらつきによる再現性の問題が発生する。そこで、ここではアルカン標準液を、直接シリンジで注入することによって、サンプルのバラツキの影響を最小限におさえての再現性試験を行なった。

実施場所：Beehive

使用機種：zNose Model 4200 カラム DB-5

測定方法：

測定は、10月10日と11日の2回測定した。最初の測定では、測定で得られたデータを使い、チューニングを行なった。システム立ち上げ後数回の空運転をした後、アセトン・ベースのアルカン標準液を本体採取口よりマイクロシリンジ（ハミルトン製 10 μl ）を使い、0.5 μl 注入して行なった。



測定条件は以下の通り：

- センサー温度：40℃
- カラム温度：40℃（昇温：10℃/秒）
- バルブ温度：165℃
- 採取口温度：200℃
- トラップ温度：250℃
- サンプリング：3秒

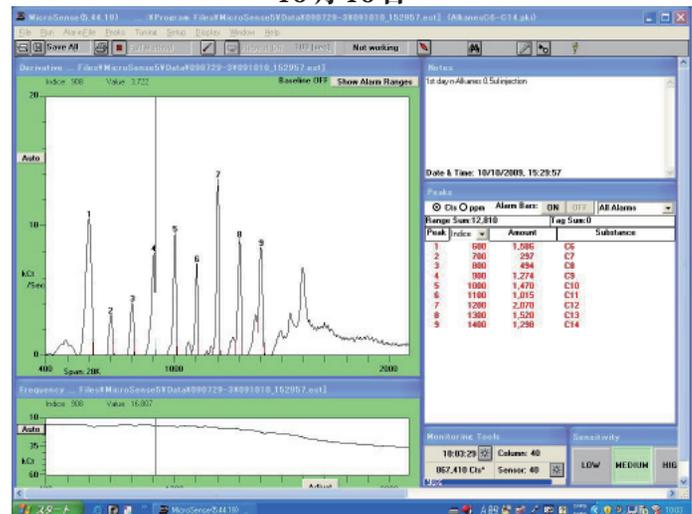
測定結果：

測定結果は、以下の通り：
定性と定量とも良い再現性を示している。

物質名	10月10日		10月11日		Amount 比較
	RI	Amount	RI	Amount	
C6	600	1586	604	1558	98
C7	700	297	706	300	101
C8	800	494	805	491	99
C9	900	1274	904	1278	100
C10	1000	1470	1004	1149	78
C11	1100	1015	1105	1034	102
C12	1200	2070	1203	2029	98
C13	1300	1520	1305	1578	104
C14	1400	1298	1405	1228	95

Amount 比較：10日を100としたときの11日のAmount

10月10日



10月11日

